

水戸殉難者恩光碑保存会 会報

# 知恩

## 第六号



恩光無辺碑 碑前・法要式典

祇園寺 小原宜弘住職

### ▼式典における「追悼文」

本日、ここに、水戸藩国事殉難者慰霊法要を挙行するに当たり、第二代水戸藩主・徳川光圀公開基の祇園寺境内に建立された「恩光無辺碑」の前に、ご来賓の皆様ご列席のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御霊に謹んで申し上げます。まず、「恩光無辺碑」の碑文を申し上げます。

「明治戊辰 徳川宗家の衰廃を悲し

み 慷慨難に赴く者 水戸藩士數

百人を下らず 皇恩洪大 宗家の後

に録す 遺靈また以て瞑すべし 茲

に 其の姓名を挙げ 碑背に録す也」

篆額は、室田義文翁の書であり、碑文は朝比奈知泉の撰であります。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い、国事に奔走しながら、一途に尊王敬幕に走り、不慮の死を遂げ、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は、誠に残念の極みであります。党派を別にし、其の主義は異なるも、君に対する忠誠心に於いては、少しも異なる所は

ないと、室田義文翁のお言葉の通り、私達も信ずるものであります。

元治元年、筑波山事件以来、百四十五年、「恩光無辺碑」建立以来、七十五年、本日、ここに、往時を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、子孫一同、碑前に会して、鎮魂慰霊の誠を捧げるものであります。なお、

幕末争乱に際し、不幸にして散華した人々の偉業に光をあて、顕彰し、この歴史の真実を風化させることなく、末長く後世に、伝える所存であります。

次の辞世の歌は、この不幸な出来事を象徴しているように思えてなりませんので、特に、申し上げますたいと存じます。

君ゆえに すつる命はおしまねど

忠が不忠になるぞ かなしき

事、志と異なると雖も、御霊の安らかならん事を心よりお祈り申し上げます。

平成21年9月22日

水戸殉難者恩光碑保存会

会長 大森信英

- 1 1934年(昭和9年) 恩光無辺の碑・建立
- 2 1934年(昭和9年) 恩光無辺の碑・碑文 室田義文 篆額 朝比奈知泉 撰文
- 1864年(元治元年) 3月 尊皇攘夷激派・筑波山挙兵(天狗党の乱)
- 3 1864年(元治元年) 5月 諸生党建言書 水戸藩主・徳川慶篤公に上程する  
(水戸藩士、後の東京大学教授・内藤弥太夫・耻叟の起草)
- 1865年(慶応元年) 2月 天狗党西上勢「尊皇攘夷派」・教賀にて壊滅
- 1868年(明治元年) 10月 水戸藩諸生派壊滅「八日市場の戦い」  
千葉県匝瑳市八日市場中台の地が終焉の地となる
- 4 1884年(明治17年) 慷慨淋漓の碑(水戸藩諸生党記念碑文)・漢文 (水戸市、神応寺)  
旧会津藩主 松平容保公 篆額、東京大学教授 南摩綱記撰文
- 1934年(昭和9年) 水戸殉難志士恩光碑保存会を創立する (諸生派子孫)
- 5 1935年(昭和10年) 恩光無辺碑 除幕式 を執行・写真 (祇園寺)  
(室田義文翁ほか 諸生派遺族 参列)
- 6 1936年(昭和11年) 9月23日 水戸藩国事殉難者慰霊祭を執行 (祇園寺)  
田中光顕・前宮内大臣 参列及び講話、室田義文翁の談話
- 7 2004年(平成16年) 9月23日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を執行 (祇園寺)  
終戦後初めての法要式典の追悼文  
恩光無辺碑・建碑後70年を記念して慰霊祭実行委員会を組織す  
水戸藩国事殉難者慰霊法要実行委員会の主催
- 2006年(平成18年) 10月22日 改めて、水戸殉難者恩光碑保存会を設立する
- 8 2007年(平成19年) 4月 会報知恩第1号  
水戸殉難者恩光碑保存会を設立するに当たって (会長挨拶)
- 9 2007年(平成19年) 9月 茨城新聞掲載記事・「諸生派の真実を」
- 10 2007年(平成19年) 9月22日 水戸藩国事殉難者慰霊法要を執行 (祇園寺)  
水戸殉難者恩光碑保存会の主催
- 11 2007年(平成19年) 9月22日・慰霊法要式典に於いての追悼文  
会報知恩第2号に掲載 報告する
- 12 2008年(平成20年) 10月6日 水戸藩国事殉難者慰霊祭を執行 (八日市場)  
千葉県匝瑳市八日市場・戦死者25人之墓・墓前に於いて  
茨城新聞記事・「水戸藩士を偲び壊滅の地で慰霊」  
水戸殉難者恩光碑保存会の主催  
会報知恩第4号に掲載 報告する
- 13 2008年(平成20年) 10月6日 墓前慰霊祭・追悼文
- 14 1926年(大正15年) 4月 水戸藩志士弔魂碑を建立、碑文(朝比奈知泉 撰文)・漢文
- 15 2008年(平成20年) 10月6日 同上・水戸藩志士弔魂碑・碑文(口語・訳)
- 1869年(明治2年) 戦死25人之墓 建立 千葉県八日市場・諸生党壊滅の地
- 1888年(明治21年) 同上・21回忌法要 (八日市場・墓前法要)
- 1968年(昭和43年) 同上・100回忌法要 (八日市場・墓前法要)
- 1888年(明治21年) 戦死者供養塔 建立 (栃木県片府田・宝寿院境内)
- 1931年(昭和6年) 長岡原殉難者供養 忠魂之碑 建立(水戸市、蓮乗寺境内に移転)
- 1931年(昭和6年) 殉難者供養塔 建立(水戸市、赤沼獄舎跡)
- 1989年(平成元年) 戊辰戦争当地戦没者供養塔 建立(新潟県西山町灰爪の丘)
- 1994年(平成6年) 恩光無辺碑域整備、由来碑 建立(水戸市、祇園寺境内)
- 2000年(平成12年) 水戸藩諸生党鎮魂碑 建立(会津若松白虎隊記念館敷地内)

## 水戸藩国事殉難者慰霊法要 次第

法要実行委員会

日時 平成21年9月22日 正午～ 午後3時  
 場所 曾洞宗壽昌山祇園寺 水戸市八幡町11-69

司会 朝比奈泰仁委員

第1部	法要式典 正午	開式	恩光無辺碑・碑前	(敬称略)	(お名前を読み上げます)
			朝比奈委員		
			1 読経	小原宜弘	祇園寺住職
			2 追悼文朗読	大森信英	水戸殉難者恩光碑保存会会長
			3 焼香	大森信英	々・会長
				蔭山二郎	々・副会長
				朝比奈光一	々・副会長
				野澤 汎	々・顧問
			4 来賓焼香	加藤浩一	水戸市長
				鯨岡 武	水戸市教育委員会 教育長
	岡田 広	参議院議員 元水戸市長			
	袴塚孝雄	水戸市議会 議長			
	高橋丈夫	水戸市議会議員 元議長			
	伊藤充朗	水戸市議会議員 前議長			
	中里誠志郎	水戸市教育委員会 文化振興課長			
	市村眞一	茨城プレスセンター株式会社 社長			
	室伏 勇	幕末維新水戸有志を偲ぶ会 会長			
	川上 清	幕末維新水戸有志を偲ぶ会 事務局長			
	小浜一男	日立歴史研究会 会長			
	池田貞雄	日立歴史研究会 理事			
	依知川雅一	匠瑛市教育委員会 八日市場 図書館長			
	椎名 浩	匠瑛市			
		水戸藩士の史跡を顕彰する会 会長			
	5 会員焼香	会員	参列者自由焼香		
	6 読経	小原宜弘	祇園寺住職		
	PM12:30 閉式	朝比奈委員			

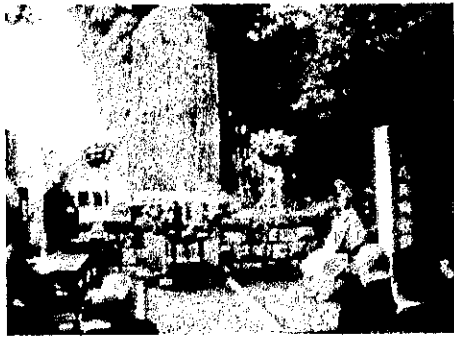
式典終了後本堂前に移動ください

記念写真 本堂前にて参列者記念写真を撮影します 撮影後客殿大広間へ移動ください

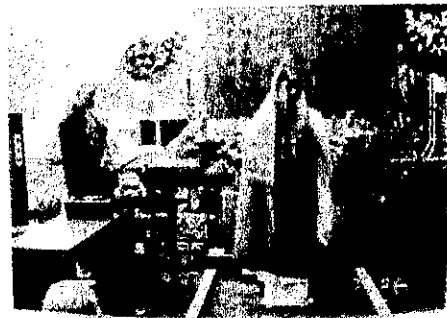
第2部	設齋	司会 開会	懇親会の部	客殿大広間において	
			朝比奈委員		
			1 開会のことば	蔭山二郎	副会長
			2 会長挨拶	大森信英	会長
			3 来賓紹介	朝比奈泰仁	委員
			4 来賓挨拶	鯨岡 武	水戸市教育委員会教育長
			5 挨拶・法話	小原宜弘	住職
			6 会食		
			7 懇親・交流	自由スピーチ	
			8 閉会のことば	朝比奈光一	副会長
	PM3:00				

全終了 朝比奈泰仁委員

散会



恩光無辺碑 碑前  
諸生殉難士慰霊式典開始



法要写真  
祇園寺小原宜弘住職  
お経を上げる



ご焼香 参拝



大森信英会長  
追悼文を読む



会場



岡田広様ご挨拶



椎名浩様  
スピーチ



市村眞一様  
スピーチ

殉難者慰霊法要挙行の報告

祇園寺法要実行委員会

清水光夫

▼(2009年)平成21年9月22日

水戸藩諸生派殉難者の慰霊供養行事を挙行致しました。当日は、ご来賓の皆様のご列席のもと、諸生派子孫及び関係者一同、恩光無辺碑前に参列の上、厳かに慰霊の式典を挙げました。

▼式典次第は別紙に記載の通りであります。

▼式典終了後は記念写真撮影の後、大広間において、第2部懇親の会が行われました。

教育長鯨岡武様の丁寧なご挨拶、参議院議員元水戸市長岡田広様をはじめ、ご来賓の皆様から、諸生殉難者を慰霊する温かいご挨拶と慰霊のお言葉を頂きました。

また、お互いに、殉難者を偲び懇親と交流のひとつ時を過ごしました。

▼当日は、ご多忙、且つ遠路の所、ご参列を頂き厚くお礼申し上げます。

▼又ご事情により、法要に参加されなかつた方々のご先祖様も共に慰霊供養しましたことをご報告致します。

参列者ご氏名「敬称略」

来賓

加藤浩一様代理として鯨岡武様

鯨岡 武様

岡田 広様

袴塚孝雄様

高橋丈夫様

伊藤充朗様

中里誠志郎様

市村眞一様

室伏 勇様

川上 清様

小浜一男様

池田貞雄様

依知川雅一様

椎名 浩様

会員

大森信英

蔭山二郎

朝比奈光一

野澤 汎

清水光夫

前沢瑞穂

朝比奈泰仁

川上有文

綿引周一

岡見 薫

平戸吉衛

岡見 肇

門井 貢

小原宜弘住職

小原副住職

吉江克江

岡見京子

戸祭頼子

朝比奈みつ子

川上京子

清水テル

戸祭勝文

朝比奈泰紀

朝比奈泰忠

朝比奈泰孝

大森信男

朝比奈 真

田崎 裕

遠西輝夫

田口 寛

橋爪裕一

中川興一

中川夫人

野田 稔

一沢勝男



水戸藩国事殉難者慰霊法要参列記念

撮影 綿引

水戸市長・加藤浩一様の代理として、水戸市教育委員会教育長鯨岡武先生より次の通りご挨拶を頂きました。

### 水戸藩国事殉難者慰霊法要

### 水戸市教育委員会教育長

### 鯨岡武先生 へご挨拶

本日は、水戸藩国事殉難者の方々のご法要にお招きをいただき、誠に恐縮でございます。加藤市長が所用のため出席できませんので、代わりまして、一言ご挨拶を申し上げます。幕末・維新时期における水戸藩では、藩を二分する戦いにより、数多くの尊い人命が失われました。その後、明治維新により、一方の側に厚い評価が与えられるなど、人々の間に、様々なわだかまりを残すこととなりました。

私どもといたしましては、今日の水戸市が、幕末・維新という時代に、わが国に行く末を真剣に考え、行動した、数多くの殉難者の方々の大きな犠牲の上に成り立っているものと認識し、水戸市議会議員で元議長の高橋丈夫様からいただいた御提言も重く受けとめ、こうした悲しく、痛ましい歴史上の出来事を様々な史実

の中から、正しく後世に伝えていくという姿勢が大切であると考えております。

先日、私は、新潟県柏崎市灰爪にございます慰霊碑をはじめ、法福寺の佐藤図書（墓）、出雲崎代官所跡などを訪れ、当時の諸生派の方々の胸中を思いめぐらせながら、お参りをさせて頂きました。

また、毎年、ささやかながら、保存管理の支援をさせて頂き、ありがとうございます。千葉県匝瑳（そうさ）市の脱走塚へは、教育次長や担当者を派遣し、お参りをさせて頂きたくとも、管理者の方からお話を伺いました。

市制施行120周年、水戸藩開府400年の節目の年を迎えるに当たり、今後とも、各地の慰霊碑や資料などを通し、悲惨な戦いの歴史の中で近代を迎えた郷土水戸の先人達を偲び、胸に刻み、歴史上の事実を正しく伝えていくことについて、最大限努力してまいりますと同時に、殉難者の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。  
平成二十一年九月二十二日

鯨岡 武

### ご挨拶と御礼

### 水戸殉難者恩光碑保存会

会長 大森信英

本日は、ご多忙のところ、「殉難者の慰霊法要」にご臨席をいただきましてありがとうございます。

国会からは、岡田参議院議員、及び議員関係者の方、本市（水戸市）からは教育長さんをはじめ、市議会の方々、さらに、郷土史研究の方々、のご臨席をいただき、より心温まる法要ができました事を感謝致します。

更に、県外からは、諸生派終焉の地であります千葉県匝瑳市八日市場「水戸藩士の史跡を顕彰する会」の方々のご臨席をいただきありがとうございます。また、御地においては、日ごろ、「水戸殉難士」の供養に当たられて

おります事を重ねてお礼申し上げます。明治元年における「弘道館の戦い」

から、百四十一年目にあたる今年、

尊皇敬幕と報恩の士道に殉じ

た先人達を偲び、皆様のご協力に

よって、より深い鎮魂の慰霊法要

ができましたことを感謝申し上げます。

ありがとうございます。

平成21年9月22日

大森信英



## 容保公の篆額

### — 水戸諸生党の豊碑 —

水戸市元山町に時宗の藤沢山神応寺と言う名刹がある。この境内に水戸諸生党に関する豊碑(功德を記した大きな碑)があった。その篆額<sup>てんがく</sup>は(碑の上部に篆字で書かれた題字)松平容保(旧会津藩主)、撰文は南摩綱紀(旧会津藩士)、書は松平俊雄(旧水戸藩士)によるもので、高さ5メートル余の立派なものであったが惜しむらくは昭和20年の戦災で破壊された。

唯幸いなことにその碑の拓本の写真が残っており。これによると幕末の諸生党の活躍や水戸と会津などとの関係も窺われ興味あり以下に纏めてみた。

慶応3年(1867)12月9日、京都御所では王政復古の号令がかかり維新の新政府が発足した。水戸城にはそれまで諸生党が蟠踞していたがやがて城を退去し代わりに天狗党が復歸してきた。諸生派の家老市川三左衛門を中心とした「市川勢」は会津に行き他日を期そうと慶応4年(1868)3月10日に水戸を脱出した。総勢約八百人近い人数と言われている。彼らは会津から更に越後長岡に至り北越戦争の長岡藩を助け激戦を繰り返したが遂に長岡<sup>城</sup>破れ、会津藩の指揮下に入り8月中旬に会津に戻り会津の防戦に協力した。

この年の8月23日は会津藩のザ・ロングステデーである。即ち会津側では石筵口<sup>いしむしやくち</sup>が破れ敵軍は長駆して城下に雪崩込み大市街戦<sup>大</sup>となった。会津側ではこの予想以上の敵の進撃の速さに大混乱となり、市中では婦女子の自刃せる家も多く、また白虎隊が飯盛山で自刃したのもこの日である。

会津の主力の多くは周囲の国境に出向き留守で、城下の守備は多くが老人と子供たちで甚だ手薄であった。水戸の「市川勢」はこの直前に越後から会津に入っており、そこで会津側の大きな戦力となって防戦に大きく貢献した。

即ち会津藩はこれらの援軍を得て漸く城の守りを固め、その後次第に周辺の防備に出た主力も帰城しその後約一ヶ月間の鶴ヶ城籠城戦が続くのである。

現在では一般にあまり知られていないが、会津にとってはその功績はもっと大きく評価されても然るべきかと考られる処である。

水戸諸生党は同年9月会津が開城するや、再び水戸に戻ってきた。そして水戸城に籠もる天狗党支配の水戸城を奪還すべく10月1日弘道館での最後の決戦を挑むも大敗し水戸を脱出して千葉方面に逃れた。

遂に10月6日の松山戦争(千葉県八日市場市)で衆寡敵せずここに市川勢は全滅した。まことに憐れむべき事である。(70名対千余名)

## ○ 水戸神応寺・諸生党碑

やがて時は移り明治17年11月、弘道館の戦いの17回忌辰に当たり諸生党関係者により水戸神応寺にこの碑が建立された。碑の建立の詳細な経緯は不明であるが、容保公の篆額てんがくは藩公もその功績を認めその揮毫となったものであろうと考えられる。

篆額てんがくの文字； 慷慨淋漓こうがいりんりの文字が篆字で書いてある。(松平容保書) 単語を直訳すれば「血や汗が滴り落ちるのを憤いまだり嘆く」となるが、全体の意味は「諸生党の血と汗の苦勞も広く認められる事もなく、これを嘆き憤いまだる」と言うような意味になろうか。

撰文せんぶん(碑の本文) ; 南摩綱紀

南摩は旧会津藩士で秋月梯次郎と同年代の親友。秋月同様に藩校日新館から江戸昌平黌に学んだ俊秀。会津では一流の名文章家と言われた人である。

この碑文を書いた当時は東大教授であった。尚余談になるが秋月梯次郎の青山墓地の碑文も南摩の撰文によるもので名文と言われている。神応寺の碑の原文は漢文体で書かれており下記は武石氏による読み下し文である。

### 撰 文

水戸の威公いこう(初代頼房)は東照公の少子にして徳川氏を輔け皇室の藩屏たり。後世相續くこと三百年、天朝を尊たつとび幕府を重んじ臣隸も亦遺意を遵法して失墜せず。

明治戊辰の変に宗家一門の顛覆てんぷくを悲しみ慷慨発憤こうがいはつぶんす。水戸、会津、越後等の地に致死せる者、凡そ三百人。今年十七回の忌辰に当たり親戚故旧胥謀あいはかり、水戸城西常磐村神応寺に建碑せんと謀はかり余に之を銘せしむ。嗚呼余も亦戊辰の乱に遭あひ矢石しせき(戦争)の間に間閔かんかん(苦しむ)せし者、銘に臨みて豈悽然せいぜん(深い感動)無からんや。銘に曰く何ぞ主恩しゅおんに報ぜん。唯一死有るのみと。死は各おのおのその所を異にするも魂は同じ桑梓そうじ(故郷)に帰す。矧こゝは藩祖の廟に近くしてその志即ち遂げり。地高くして松青く豊碑千祀(末永く)に伝わらんことを。

総括 ; 明治維新では薩摩や長州は戦の勝ち組で且つ藩内の和もあり我が世の春を謳歌した。会津は負け組であったが誇りを失わずその結束は固く為に明治になってから多くの人材を世に輩出した。然るに水戸は維新回転の暁の鐘を撞き、勝ち組に属すも藩内抗争で悉く人材が枯渇して誰も明治の世に出なかった。まことに哀むべきものである。戦争の勝敗よりも人の和の大事さを物語るものである。

(参考文献) 武石徳重氏、市村真一氏 資料ほか参照



ご紹介

茨城新聞社刊行・「昭和52年発行」

「茨城人のルーツ」より

水戸藩家老鈴木石見守重棟について

子孫は鈴木重一氏（水戸市在住）

（鈴木家とは・・・）

水戸鈴木石見守家が山吉田（愛知県南設楽郡蓬萊町下吉田）鈴木家より出て水戸に移ったのは元和4年

（1618）、水戸藩の重臣。8代重矩

は文政2年（1819）に家老となり、

同7年には26歳の若さで定江戸執政を命じられた。その子重棟は安政

6年家督を継ぎ14500石を賜

り大寄合頭となる。翌年万延元年

（1860）3月、家老を命じられ城代

となる。いわゆる諸生派。明治元年

（1868）2月、鈴木家より分家した

執政鈴木縫殿らが朝廷の勅書を奉じて江戸に下り、諸生派を罰するに及

び、重棟、市川三左衛門らは藩を脱

した。市川は会津に向かったが、重

棟は江戸に息子らと潜伏中捕まり、

斬罪の上さらし首にされた。同年4

月23日のことであった。重矩も捕ま

り、同年2月獄中で病没。

藩を脱し江戸に潜伏

水戸藩内を天狗、諸生の二派に分けて展開された血みどろの幕末抗争は、

幕府の手で行われた天狗党の大量処

刑によって幕をおろしたかにみえた。

幕府側の諸生派は天狗党関係者に弾

圧を加えた。しかし、そのわずか後

に幕府は倒れ、今度は生き残った天

狗党によりすさまじい「諸生狩り」

が行われた。勝てば官軍、負ければ

賊軍」のたとえの通り、明治以降、

しばらくの間、社会が落ち着きを取

り戻した後も、諸生派は肩身の狭い

思いを余儀なくされた。

いわゆる、戊辰の難で、当時家老

職にあった諸生派の鈴木石見守重棟

は、その子銚太郎「8歳」、甚次郎

「3歳」とともに藩を脱して、上野

芝白銀台町の忍願寺に潜伏中を明治

元年（1868）4月捕まり、水戸に送

られ3人とも斬首の上さらし首に

された。

重棟の父・重矩も諸生派の領袖とし

て捕まり、水戸赤沼の獄舎に投じら

れ、同2年正月、獄中で病没した。

また、重棟の叔父・重為（慶応2年

3月（1868）病死）の長男で、同藩

大目付職にあった謙之介は、重棟逃

亡ほう助の罪を科せられ、明治元年

切腹して果てた。鈴木一族で女を除

き難を逃れたのは、重為の末子の

金六郎のみであった。

生活苦乗り越え再興

当時16歳の金六郎は水戸近郊を

転々と逃げ回り、明治16年（1883）

になってやっと絶家の再興をなした。

しかし諸生派というだけで勤めに出

ることもできず、生活は苦しかった。

金六郎に2女があり、長女・こうが

鴨志田家の2男為次郎を婿に迎え

家を継ぐ。為次郎は水戸刑務所の刑

務官だったが、大正8年ごろ転職し

自転車店を始めた。現在は為次郎の

長男の重一さんが家督相続し、同じ

自転車店を営んでいる。

水戸藩家老という重職にあった同

家の面影を今に伝えるものはあるか。

「殆どありません。水戸を離れ逃げ

回っている間に、家は荒された上没

収された物もあつたでしょう。残つ

た物は2代目石見守重政の念持仏、

系譜それに4代目重道が享保6年

（1721）家老となり従五位下に任じ

られた時の証書ぐらい」と現当主の

重一さんはいうが、先の戦災で焼失

したという。

同家の墓地は、水戸市元吉田町の

葉王院にあるが、面積は約350平方

メートルと広大なもの。このあたり

に鈴木家の威勢が偲ばれる。

先祖の供養が願ひ

「鈴木家の屋敷は、現在の水門町あ

たりにあつて、「水門屋敷」といわれ

ていたという話です。屋敷の中に水

門があつたと聞いています」と重一

さんは当時の地図を見ながら語った。

天狗、諸生両派の弾圧が家族まで及

んだのは事実だが、鈴木家の場合

は、「丁度、山吉田から水戸に修

行に来ていた親類の鈴木真喬は、

重棟らの斬罪の報を知り危険を感

じ、重棟の妻や重棟の父、朝比奈

弥太郎の妻など67人を連れて、江

戸から海路遠江舞坂を経て山吉田

に入ったのです。寺などに数か月

隠れた後、紀州和歌山や駿州朝比

奈村など転々としたが、遂に、追

手に捕まり水戸へ送られたという。

結局、病氣や自刃により大部分が

死んでしまいました。大脱走は失

敗に終わったわけだ。

重一さんの望みは2代目重政

の念持仏（聖観音菩薩）を1日も

早く重政の墓の側へ納めることと、

同家の系譜を平易にまとめること

だという。

◆水戸葉王院にある鈴木家の墓



平成20年5月26日 撮影

幕末明治維新期の水戸藩内の政治抗争は、ただ単に、藩士層間の保守門閥派と改革推進派による権力闘争に終始したのではなかった。

それは、広く郷村の庶民層にまで影響を及ぼし、しかも、後々までも巷の語り草としたことである。

来栖平造氏著書より抜粋引用

宮澤正純先生論文より

農兵隊の動向について

元治元年(1864)天狗党の乱

水戸近辺地域で幕府連合軍、市川

諸生党、自衛及び報復の為の農兵隊

と松平頼徳勢、神原大発勢尊攘鎮派、

武田・山国尊攘鎮派、田丸・藤田尊

攘激派、潮来・小川郷校勢、及び田

中蔵隊激派が戦った。

この戦いで、鯉淵農兵隊は雌雄を

決する部田野決戦(現東海村)に参

加し、多大の戦功をあげ恩賞をうけ

た。その後彼らが天子方面に逃走し

たので帰村した。

尚、この外参戦した平戸河和田勢

(水戸市)、関沢勇五郎隊(野口村)、

も同様であった。

宮澤正純氏は、明治元年(1868)

2月、奸徒を掃除し、反正の実行…

の勅諭により4月9日、武田金次郎

勢及び本國寺勢が京都を発し5月

水戸に到着すると、直ちに、奸徒・

朝敵に対し、暴虐極まりない追求と殺人を行った。

このような殺戮の為、3歳以上の男子をすべて殺されると噂が広まり、

鯉淵勢をはじめ諸生党に加担した農兵隊の者は、領外へ落ち延びた者も

多数あった。その時の執拗な探索と過酷な処置は、現在まで土地の人々に語り伝えられている程であった為

やがて鯉淵勢への参加を口にする人々はなくなり、記録は意識的に忘れられた。

鯉淵勢の実態が不明な理由の一つはこのことにあると述べている。

これは、その外の民兵隊についても同様であるが、詳細な史料が見つからない為、十分解明されていない。

さらに同氏は、額田村寺門登一郎の指揮下の寺門民兵隊(約300~400)

が、数十ヶ村に及ぶ組合連合で組織し、水戸城以南を鯉淵勢、以北を寺

門勢が受持ち、積極的に戦闘に参加した。市川勢と合同で大津勢、諸生

党の戸祭大全と共同で、助川館主・山野辺勢と戦い、金沢く大雄院く入

四間(以上・日立市)く太田村(常陸太田市)を経て帰村し、戦闘部隊として賞賛された。

寺門一族は豪族で、近世から広大な土地、屋敷を持ち、古くから土着

しており、歴代の藩主、重臣の要請

により再三にわたり藩財政赤字補填のため献金をしてきたが、安政3年

(1856) 斉昭、「改革派」・尊攘派により、執政・結城寅寿が一言の弁明

も許されず、斬首され、欠所(家名断絶、財産没収)の処分になり、門

閥派の重臣なども罷免、入牢、などにより門閥派は壊滅した。この為、

寺門一族をはじめ献金郷士たちは何の關係もないのに「百姓戻し」の厳しい不当な処分を受けた。元治元年

(1864)この報復の為、多くの村々から民兵(農兵)隊を組織して諸生

党幕府軍に加担したのである。以上

★水戸藩与力 寺門登一郎  
元治元年 尊攘派追討に活躍

時移り明治元年(1868)、寺門登一郎は水戸を脱出し、会津から仙台に向かったが新政府に捕らえられ入牢

後、元居村・茨城県那珂郡額田村で明治元年7月21日 刑死「磔刑」

大正5年3月27日 墓碑建立

★長男・寺門彦太郎(当時13歳)は、明治元年市川諸生軍に参加し会津城

攻防戦を生き延びたが、額田村では生きることができず各地逃走の末、

新潟県関川村に落ち着く。

大正6年没。その生涯は、子孫の寺門登志様の手記に詳しく記録されています。(川上)



鱗勝院 本堂(茨城県那珂市額田)

平成21年10月21日 撮影

★登一郎辞世の歌が墓碑左側面に次の通り刻んである

「最後辞世

君のる捨つる命はおしまねど

多思ふらん国能行末」

鱗勝院 寺門登一郎の墓



平成21年9月23日  
南無釈迦牟尼佛為忠山義道清居士  
精霊彼岸会供養 寺門登志

会員広場 みんなの声  
平成12年5月19日 記

新潟県胎内市 寺門登志

中城町公民館発行誌より引用

祖父(寺門彦太郎)について

今年祖父が亡くなって80年になる、祖父は安政生まれの人だった。私が生まれた頃は、既に亡き人であったが我が家の座敷の長押の上に、等身大の若き日の祖父の写真がかかっていた。これは、父が13年忌を行つた時、私共子等にその遺影を見せておきたいために、祖父の医師免許証を取得する時の写真を探し出し引き延ばして額に入れて飾つたものだった。

それから、数十年を経た現在、弟は豊栄市へ引っ越したので、この町に住む私がお寺の月参り墓参り引き受けている。

私は高齢者大学にお仲間入りさせていだいて間もなく十年になろうとしている。

お盆に豊栄へお参りに行き、引き延ばす前の祖父の写真を見つけ、何か懐かしくなって祖父のことを子や甥、めい、孫などに書き残してやりたいと思ひ立った。

祖父のことは、私が幼いころから祖母が縫物等しながら、問わず語りに繰り返し聞かせてくれたものだった。

た。それは、祖母の若い日を追憶するような語り口だった。私は祖母のかたる祖父の話をいつも初めて聞くような顔で聞いたものである。

祖父は、水戸藩の若い与力・寺門登一郎の長男として生まれた。生まれた年が安政2年、折から、水戸藩の内紛、続いて明治維新となる激動の日本に生まれた人だった。幼少の頃の祖父は、士族の子なので学問も藩校で学び、柔術、剣術、水練は水戸の水府流等を厳しく指導されたこと。祖父は後年医学校見習生として関川村下関の佐藤玄信様の家に寄寓していた。

祖父が13歳の頃、あの有名な会津藩の戦闘があり、祖父もその中の一人であったとのこと。松平様は、いよいよ出陣に臨んで関兵された時、水戸の援軍の前では深く頭を下げられたことを祖父は晩酌の時などなつかしげに語つたと祖母が言っていた。敗戦の会津は、他からの援軍を討ち死にさせまいとして使者を立て恭順の意を表し、水戸の援軍は無事に帰してくれた。敗走の時は、会津の殿様の下屋敷で夜具もままならず、奥様お嬢様の打ち掛けなどを着せてもらったと、これもまたとっておきの話だったとか。

同じく水戸では、天狗党、諸生党

の内紛があり諸生党の大將であった祖父の父は、天狗党に捕らえられ久慈川原で磔刑になったため、家禄は没収、家は闕所になっていた。祖父はしつこく追う天狗党の目を逃れて、わずかの金を襟に縫い込んで放浪の旅に出たが、明治維新になって世の中が変わったので、祖父は東京に出て済生学者の門をたたいた。たぶん、刀をさして歩く時代が終わったため、これからの世の中は学問で身をたてなければと思われたのだろう。しかし、祖父にとつては藩学で学んだ漢籍の力ではドイツ語の医学書に難儀したとのこと。

前期の試験は明治22年2月、そして、後期に試験に受かったのは明治28年の10月だから、何と7年もかかったのだった。

後期の試験が通つた時、しばらくは病院に勤め、明治30年11月、東京で開業しお世話になった人々にお礼返しをしたとのこと。

それより、少し前の明治22年4月26日に茨城県知事から家名再興許可の通知を頂いた。しかし、当時、天狗党であった弟が、家、屋敷を引き継いでいたので、その書類だけがわが家に残っている。

祖父はその通知を受けてから、刑死した登一郎様の墓を一族の墓に

並べて新設した。昭和に入つてから、那珂町の鱗勝院にあることを町で調査して、町の文化財に登録したとの知らせを聞いた。

祖父は明治32年に祖母の実家のある中条町に移り住み、かつてお世話になった祖母の実家の人々の医療を無料サービスとした。やがて祖父は中条を終の住家ときめ、当時、赤痢や腸チフスが流行するたびに開院される避難病院の当番医をしたり、晩年は柴橋小学校の学校医などもつとめた。

祖父は、晩年しきりと水戸をなつかしがって「おれ死んだら親父のそばに小さい墓を作ってくれなにか」と晩酌の時など言い言いが、と祖母がぼやいていた。そして祖母はその度毎に「お墓参りもままならないものの中条のお寺にしましょう」と説得したとか、しかし本心はわからない。でも祖父の墓は中条の善良寺にある。

祖父が気にしていた曾祖父登一郎様の墓参りは、母が存命中は必ず秋の彼岸に水戸まで出掛けていたが、母亡き後は私が秋の彼岸にお布施を送り続けている。「おじいさまこんなことでごかんべんください」と言いわけしながら。以上

奥山荘郷土研究会誌第34号より

新潟県胎内市 寺門登志

後藤新平と寺門彦太郎

昨年は中国の四川省で世界規模の大地震があつた4年前には中越地震、更に岩手内陸地震では我が家の柱時計が止まった。この頃地震が多くなつたように思う。

今は亡き祖母が、ことある毎に、関東大震災のことを語つた。過日NHKの「その時歴史が動いた」という番組で、関東大震災の一部を映像で見て、天災の恐ろしさをまざまざと見せつけられた。

その番組の中で帝都復興の尽力された後藤新平の偉業に目を見はつた。若い医師の後藤は日清戦争時代から防疫に力をつくし人体だけでなく、国政にも関与し、当時植民地だった台湾にすばらしい都市計画を実施し、さらに、満州に渡り満鉄の総裁になつて、海外にまで都市計画をし続け、帰国後は大臣もつとめ、若者の育成のためにボーイスカウトも編成した。明治から大正、昭和まで貴重な一生を駆け抜けた人だった。後藤の残した言葉の中で「人を使うには午後3時の人は使わない、午前8時の人を使う」と若者の力を信じた人だった。又、有名な「人のおせわにならぬよう」「人のおせわはするよう

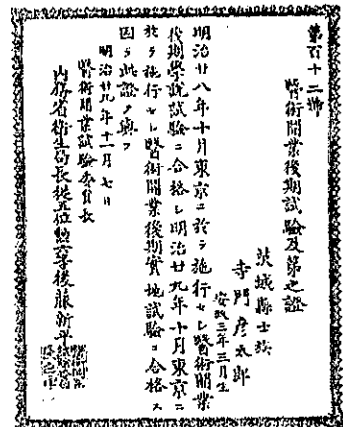
に」「そして報いを求めぬよう」というをを残しておられる。

又、後藤新平が夢にえがいた東京復興まであと1年というところで亡くなられた事は誠に残念であつた。

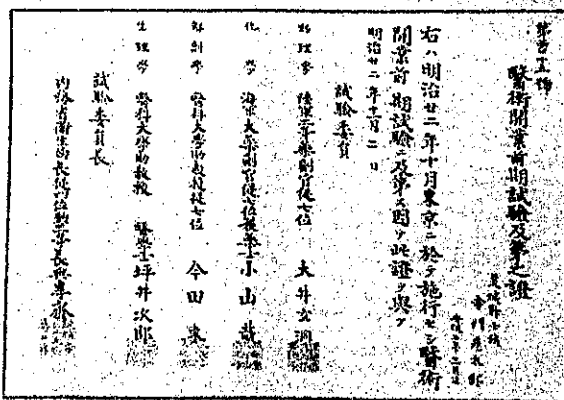
現在の東京は、その後大東亜戦争で東京大空襲にも会つたが、その後の復興は後藤新平の引いた地図のおり復旧している。昔の政治家の偉大さ、強さをしみじみと想つた。

ふと、後藤新平という署名の免許証「写真①」がわが家にあつたことを思い出し、医師としての後藤新平を思い出すすがにもと、祖父の「医師免許試験及第の証書」を披露してみた。

第1次試験から第2次試験まで、8年かかっている。昔も医師になることは、容易ではなかつたのだ。上京してこれらの試験をうけるには、地方の開業医「写真②」については3年の修行をしなければならなかつた。祖父が関川村の佐藤玄信医師のもので使つた教科書「写真③」がたまたま1冊残つていたのでこちらも披露してみる。祖父の晩年は柴橋小学校の学校医を最後の仕事として亡くなられた。集合写真「写真④」は卒業式の記念写真である。前列左から4人目羽織袴のはげ頭が祖父彦太郎、その隣の洋服姿が校長先生。



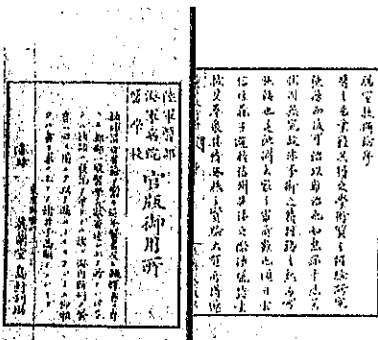
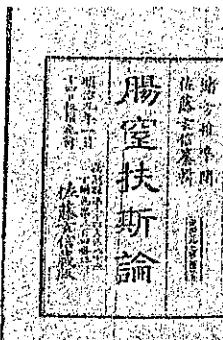
写①



写②



写④



写③

お礼とご報告

副会長 朝比奈光一

▼本会は、設立以来、3期目を迎え、長い間、顧みる人も少なかった水戸藩諸生派殉難者に少しでも、光を当てる事ができるのも、ご列席の皆様のご先祖を想う熱い心とご協力によるものと思います。

昨年、千葉県匝瑳市八日市場・墓前法要には地元の方々が大変お世話になりました。本日は、匝瑳市から、遠い所を、依知川様、椎名様にご列席頂き重ねて厚くお礼申し上げます。

又、来年は、現地慰霊祭を福島県会津若松市で行う予定であります。

会津史談会、白虎隊記念館の方々と協議の上、具体化を進めて参る所存であります。会員の皆様には、詳しいことが決まりましたら、改めて、ご連絡申し上げますが、その折は、宜しくお願い致します。

水戸藩末史については、色々な見方がありますが、「恩光無辺碑」の建立尽力者であり、天狗党の先達である・室田義文翁は「両派の殉難者を供養するのは後世の人々の務めである」と言われております。

私どもは、翁の言葉とお礼、供養を続け、少しでも芳名を留め、光を当てて参る所存であります。

最後になりますが、本会・水戸殉

難者恩光碑保存会は、純粹に、水戸藩国事殉難者の慰霊供養を目的に設立したものであり、今後とも、慰霊供養に専念して参る所存であります。

ご列席の皆様、本日に、本日は有難うございました。(朝比奈)  
平成21年9月22日

▼寺門登一郎について  
ご子孫の登志様より、寺門彦太郎氏について詳細な手記を寄せられ有難う御座いました。本号には一部分を掲載させて頂きました。

登一郎は現在の茨城県那珂市額田の人で、元治元年「天狗党の乱」の時、水戸藩与力として、寺門農兵隊「300人位」の旗頭として、水戸藩諸生派の戦力として活躍されました。時の推移と共に、明治元年諸生派が壊滅、登一郎も古里を離れ逃れたが、捕縛され最後は古里額田に於いて磔・処刑されました。罪人ということ

で墓を作ることは許されませんでした。だが、大正5年に彦太郎氏が寺門一族の墓所に墓碑を建立しました。

彦太郎氏については、会津戦争に参加「13歳の時」、その後、古里を離れ苦難の末、新潟県で死亡寸前に篤農家に助けられました。それから、努力し医師になりましたが、それは長い々話なので活字にし残すことになりました「登志様談」(朝比奈)

▼会津藩重臣・京都守護職・公用方秋月悌次郎様について  
今、茨城県では、水戸市政200年、水戸藩開府200年の記念の年にあたり、県民一丸となつて、「桜田門外の変」映画化支援の会を立ち上げ、地域活性化に全力で取り組んでいるところです。なお、映画は来年秋に上映とのこと。この事件の首謀者は水戸藩士・高橋多一郎で、事件後、大阪で、

自害しましたが、幕府は埋葬を許さずそのまま3年ほど放置しました。あまりにも悲惨なので、水戸の者が、遺体引き取りを秋月様に願ひ出て、秋月様のご尽力により、引き取り許可を頂き、水戸常磐共有墓地に埋葬することが出来ました。この事について、現在、水戸で知る者はいないということ。私どもは、「羽賀重弥氏談」

私どもは、この事について、会津若松市の秋月悌次郎顕彰会の会長・畑敬之助先生に御礼申し上げます。又、尊皇攘夷激派の人であろうとも天狗諸生の勝敗に関係なく、水戸人として、ご子孫・秋月一江様にも、心より御礼申し上げます。(前沢)

▼本号作成中、殉難者名簿をはじめ、どの史料を見ても、目にしたくない文字があり、(戦死・磔、斬首処刑等々)、あまりに悲惨なので書かない方がよいのではな

いかと心苦しく躊躇していました。でも、これは、文字を正視しないと真実がわからないと思ひ、又、避けて通れない事と思ひ、敢えて記入してあります。皆様におかれましても、どうかこの点はご了承願ひます。そして、ご先祖がどのような最期であったかを冷静に受け止め、慰霊供養されることを願ひて

います。重臣であった・結城家、鈴木家、市川家、朝比奈家、佐藤家、大森家は全員戦死・刑死し、家名断絶、絶家処分を受けました。更に諸生派藩士の多く家が絶家、家名断絶処分されました。明治22年268家が明治憲法制定を期して家名再興を許されたのであります。

しかし、(天狗正義、諸生は悪)その差別的歴史観は現代にまでつな

がっておるやに聞いており残念であります。

歴史上の事実を正確に認識し、両派の殉難者を、誰もが心安らかに、差別なく供養が出来ますよう願うばかりであります。(川上)

新しい出会いと新しい発見

▼会津藩 秋月悌次郎様

既述されたように、会津藩の重臣・京都守護職・公用人 秋月悌次郎様が井伊大老・襲撃首謀者の高橋多一郎父子の遺体引き取りに大変尽力されたことを、会津出身の羽賀様に教えて頂きました。初めて知りました。

回転神社境内のニシン蔵に父子の姿「人形」が展示されています。

水戸ではこの経緯を知る者はいないのではないか。「羽賀氏談」と言われています。

新発見①です。

▼新潟県 寺門彦太郎様

これも既述されたように、那珂市額田の郷士の長男・寺門彦太郎様の生涯についての、ご子孫の登志様の詳細な手記を読んで感動しました。

これも、初めて知りました。新発見②です。

▼水戸藩士 今村喜左衛門孝本様

茨城新聞寄稿の「小さな発掘が史実を証明」にありますように、「今村喜左衛門孝本」の生涯を読み驚きました。でも、一人でも生き延びて、明治の世に、人々のために尽くされた事は良かったと思います。

これも、初めて知りました。水戸藩国事殉難者名簿によると、氏

は、越後灰爪の戦場で戦死とあり、祇園寺の慰霊碑にも名前が刻まれています。水戸藩 大番組頭 新発見③です。

▼市川達也様

茨城新聞社・市川真一様に教えて頂きました。9月22日法要の時、お話しをされました。これも初めて知りました。

氏は、家老・市川三左衛門弘美の直系の曾孫に当たる方と思われます。

長男・主計は戦死、孫・やそきち・「八そ吉」は母と共に病死したと聞いていましたが、その子の達也氏が生存していたのです。

弘美 主計 八そ吉 達也氏 母・某

驚きました。

9月22日、法要当日、祇園寺住職よりご連絡を頂きました。住職よりのお話で、本会より、会報知恩はじめ関連資料を市川達也様あてに送りました。その後、本会への入会手続きを頂きました。

是非、詳しい事情を知りたいと思います。新・出会い④です。

▼家老・寛介太夫政布・子孫縁者

田口 寛様 常磐大学オーブンカレッジ講座・市川勢の軌跡・受講仲間の方です。

会報知恩ほか関連資料をお届けし、ご理解頂き入会の上、又9月22日、祇園寺の慰霊法要にご参列を頂きました。初めての出会いでした。

新・出会い⑤です

▼畑敬之助様

会津史談会元・会長、秋月悌次郎頭 彰会・現会長、畑敬之助先生を、羽賀重弥様よりご紹介を頂き、会報知恩などをお送りさせて頂きました。先生には、本会の活動をご理解頂き、本会入会の手続きを頂きました。又来年、会津における「水戸藩諸生党 鎮魂碑前慰霊祭」にも協力するとのお手紙を頂きました。

これも、初めてのことです。

新・出会い⑥になります。

▼林様

匠瑛市野木町に、今まで不明であった諸生戦死者「16人」の墓が発見されました。「水戸藩士の史跡を顕彰する会」会長・椎名浩様のお話からです。会では木標をたて供養されましたが、地元の人様という方が「石碑」を建て、供養することです。

10月中建立とのこと。

有り難い極みです。これも、初めて知りました。

新発見⑦です。○匠瑛市では、水戸藩戦死者脱走塚

整備費を市は予算に計上し墓所の整備保存に尽力されていることを椎名様から伺いました。

有り難いことです。

▼水戸藩士 弓削左内有恵様

古文書調査の結果、この方が北越灰爪の戦場で戦死している事が分かりました。しかし、殉難者名簿にも恩光碑裏面にも記録がなく、今まで分かりませんでした。が、殉難者名簿に追加記載しました。改めてご冥福をお祈り致します。尚、ご子孫にも入会頂きました。新発見⑧です。

▼水戸市教育委員会の先生には、新潟県柏崎市灰爪の丘にある(慰霊碑)をお参り、また、法福寺にある家老・佐藤図書墓の墓参、千葉県八日市場におきましては(脱走塚)を訪れ、慰霊参拝頂き、心より有難く思います。又、幕末維新水戸有志を偲ぶ会の皆様も11月18日脱走塚訪問参拝とのこと有り難く思います。

僭越ながら、会員一同に代わりまして、心よりお礼申し上げます。

悲惨なことばかりが多いなか、このように、新しい情報が寄せられ嬉しく思います。

(事務局・川上)

会津若松慰霊旅行に関して

現地慰霊祭実行委員会  
朝比奈泰仁

◆来年、平成22年度は会津若松・慰霊旅行を予定しています。  
会津慰霊旅行関係について、概略お知らせ致します。

記

日程 平成22年10月下旬

一泊・慰霊旅行

バス利用

出発 水戸駅 午前7時半

到着 会津 午前10時半

目的 碑前慰霊祭 午前11時半

初日 水戸藩諸生党殉難者慰霊祭

献花焼香参拝

白虎隊士墓所参拝

白虎隊記念館見学

秀長寺参拝

2日目会津城「鶴ヶ城」 見学

記念写真撮影

鶴ヶ城・西出丸北出丸等見学

藩の学校・日新館

参加予定 30名

参加会費 検討中

◆県外の方で直行する方も歓迎

会津若松市・白虎隊記念館前にお

集り下さい

○詳細決定しましたら、改めてお知らせ致します。

◆明治元年、戊辰戦争会津若松城攻防戦において水戸藩士は会津藩と共に戦い、次の人々が戦死しました。

姓名・次のとおり

岩上彦左衛門

薄井友衛門昌股

大森弥三左衛門信任

大高清介

荻昌介君賢

福田儀介

佐々木治兵衛

高田秀三郎

高橋木一郎

高橋与蔵

瀧徳太郎

宮田金蔵清広

宮崎弥介

松本辰蔵

江幡義之介

福田義介

鷲子村郷士

家老

大目付

大目付

徒士

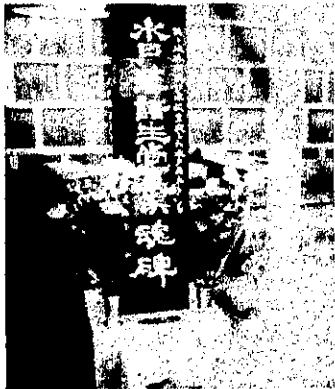
与力

馬廻組

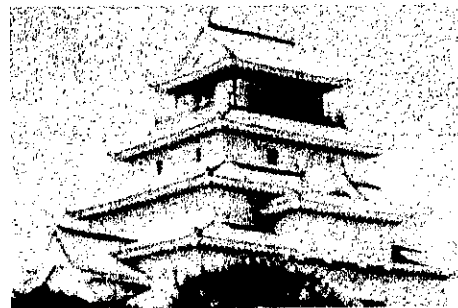
合図役

徒目付

寺社役



鶴ヶ城 会津若松市



「故」来栖平造氏・遺稿より  
諸生党の会津藩救援の活躍状況

「早川喜代治著・史実白虎隊―新人物往来社」では、慶応4年8月23日雨の朝、西軍は甲賀口郭門を破り怒濤の如く北出丸追手門に進撃・・・、6日口、馬場口、なども破れ、西軍の各隊は内城の各門に殺到する。本城を守る士は実に僅少で老人有志隊10数名が北出門を守っていたほかは隊と名のつく隊は皆無であった。この時、会津藩が非常に助かったのは越後から帰っていた水戸藩脱走隊

(諸生党)の1部200余名が急を聞いて駆けつけ防衛し危機を救った。

更に、文中の別な箇所を要約すると、守兵の少ない時、水戸脱走隊(諸生党400余名)の救援は、実に会津藩を感激させた。また、籠城中も、南門口、西出丸三の丸の防戦に犠牲を惜しまず力戦、相当数の戦死者が出たが、さらに、400余名は城西に出て、米代四ノ町、栃木邸に屯営して活躍したことが籠城者の手記にあると述べている。その後、勇将・佐川官兵衛の部隊に入り、城外各地で戦い、田島で佐川から開城を聞き、両者は涙を流して別れを告げ水戸に帰ったと述べている。

水戸市史、歴史研究家などの記述では、水戸から会津迄の経路と会津藩との折渉状況、北越戦闘状況帰路経路、水戸城攻防戦、八日市場の戦い・全滅まで詳細に述べているが、水戸市史では会津若松史を引用して、市川勢(150人)が城内又は背あぶり山にいたと記述しているのみである。現地調査や史料の収集が不十分であったと思われる。

代議員選任について

平成21年5月1日、任期満了につき第2期の代議員を選任しました。任期は21.5.1～23.4.30となります。

次の方々であります。

代議員

朝比奈泰忠	大森信英
朝比奈輝明	蔭山二郎
信木義通	朝比奈光一
佐藤万里子	清水光夫
立原貞夫	前沢瑞穂
松尾明宏	朝比奈泰仁
松葉尚志	川上有文
市野澤晴孝	綿引周一
今橋知江	岡見 薫
谷田部 一	平戸吉衛
佐々木友好	門井 貢
大森泰夫	寛陽之助
大森悦朗	一沢勝男
結城敏也	岡見 肇
上野清彦	市川溪子
野田 稔	朝比奈泰紀
福王盛夫	大曾根豊治
吉田政弘	大森信男
	戸祭勝文

アンケート結果報告

1 祇園寺法要参加 (50名)

9月22日 慰霊法要実施済

2 水戸市内寺院墓所巡拝 (12名)

個人自由参拝に変更

寺院別・殉難者墓地明細書を

12名の方にお配りします

3 水戸藩国事殉難者名簿 (45名)

名簿の外に慰霊供養の経過

書面を添付しました

お申込み頂いた全員の方に7月

中にお送り致しました。ご先祖の

名前を確認して供養して下さい。

4 会津慰霊旅行参加予定 (25名)

次の事項を決定しました。

平成22年10月下旬・実施予定

一泊慰霊旅行 30名募集

白虎隊記念館敷地内の

「水戸藩諸生党鎮魂碑」前にて

慰霊祭実施

詳細は決定後改めて連絡

寄付のご協力を頂きました

平成21年4月1日～10月31日

ご芳志有難う御座いました

寄付金

金貳万円也	佐藤万里子様
金壹千円也	野澤 汎様
金壹千円也	寺門三郎様
金壹千円也	朝比奈光一様
金壹千円也	朝比奈泰忠様

金壹千円也 大森信男様

金壹千円也 戸祭勝文様

金四千元也 結城達也様

金壹万円也 弓削徳衛様

金四千元也 小山文子様

供養寄付金 (9月22日)

金壹万円也 市村眞一様

金壹万円也 幕末維新水戸有志を偲ぶ会

金壹万円也 日立歴史研究会

金壹万円也 水戸藩士史跡を顕彰する会

金五千元也 岡田 広様

金五千元也 小山文子様

金五千元也 野田 稔様

金五千元也 佐々木友好様

金参千円也 朝比奈泰仁様

金参千円也 戸祭勝文様

金参千円也 岡見 薫様

金五千元也 上野清彦様

年会費納入について

本会は皆様の会費のみにて運営し

ています。新年度(第3期)年会費

納入については特段のご協力を御願

い致します。

参考及び引用文献

茨城人のルーツ

茨城新聞社刊行

中条町公民館発行誌より寺門登志氏

奥山荘郷土研究会誌より寺門登志氏

医師免許試験及写真 々・提供

会津関係 故来栖平造氏遺稿より

随想(容保公の篆額) 羽賀重弥氏

編集後記

▼今年も残り少なくなりました。皆様には十分ご健康に留意されてお過ごし下さい。

▼第2回祇園寺・慰霊法要について報告しました。

▼前号に続き、ご紹介します。

水戸藩家老・鈴木石見守重棟

について

▼寺門登志様には本号掲載のほか

に詳細な資料をお送り頂き有難う

御座いました。

▼ご希望、ご意見などありましたら、何でも結構ですからお寄せ下さい。ご寄稿をお願いします。

水戸殉難者恩光碑保存会

会報知恩第6号

発行日 平成21年11月1日

発行人 大森信英

編集責任者 前沢瑞穂

編集委員 朝比奈光一

清水光夫

朝比奈泰仁

川上有文

綿引周一

岡見 薫

事務局

作成

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局

事務局